

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人 翠山会 グループホームなかよし
(ユニット名)	なかよしA
所在地 (県・市町村名)	長崎県佐世保市赤崎町81-3
記入者名 (管理者)	藤村 妙子
記入日	平成19年11月1日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

( ■ 部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	地域密着型サービスの意義を盛り込んだ理念をつくり、地域との関係性強化を図っていくようにしている。	○	地域の中でその人らしく暮らし続けていけるように全職員で理念を理解し支えていくよう取り組んでいきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	いつでも目に付く所に理念を貼って共有できるようにしている。ミーティングの際にも必ず理念に触れ、日々の介護に反映させるようにしている。	○	「元気で 楽しく ゆったり」と暮らしたいとの利用者からの要望を受け留め、個々を大切にされた介護を行っている。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	ホーム便りや運営推進会議等で理念を伝え、理解してもらえよう取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	近所の方への挨拶を心がけている。通学路途中に立地して、トイレを借りたり、お茶をもらいに小学生が立ち寄ってくれ、利用者ともふれあいやい効果をあげている。	○	「子ども110番」の家になっていて、気軽にホーム内に入れるようにしている。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地区の公民館で行われる行事に参加させてもらい文化祭等で利用者の作品を出品したり、見学に行かせてもらい地元の人々と交流することができている。	○	小学生の社会科の学習の場として提供している。それが交流と共にお互いの相乗効果を生み出す事ができている。引き続き行っていきたいと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	2つの小学校の社会科の学習の場として、毎年提供している。また慰問を兼ねた、踊りの会の発表の場としても使っていただいている。	○	これからも、どんどん地域の方を受け入れグループホームの本当の姿を見てもらえるようにしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者を中心に職員全員で自己評価に取り組み、意義を理解し、前年より向上しているかを確認するようにしている。	○	外部評価の結果を真摯に受け止めサービスの質の向上に努めていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実際、グループホームの地域への位置づけなどを報告し、外部から見た感想などの意見を聞いて、サービス向上に活かすようにしている。	○	運営推進会議の後、報告書を行政に対して提出するだけでなく全職員にも周知し、サービス向上につなげていくようにしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護支援センターの職員との交流は持っているが、市町村担当者と向き合う機会は少ない。	○	積極的に市町村担当者と意見交換ができる機会を見つけていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	以前は、市の社協で通帳管理をしてもらわれている利用者がおられたが現在は活用している人はおられない。	○	研修の機会があれば、積極的に学んでいくようにしたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講演や研修に参加して学ぶ機会を持っている。言葉使い等も折に触れ、注意していくようにしている。外泊後は入浴時等に外傷がないか確認するようにしている。	○	身体的虐待だけでなく言葉や態度でも虐待になる事を全職員が周知しサービスの向上につなげていくようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居・退去時には利用者、家族に対して十分に説明を行い、理解・納得していただけるようにしている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>会話の機会を多く持ち、会話の中から不満や要望を引き出すように心がけている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、ホーム便りを発行し、生活状況を報告したり、面会時にさらに個々の暮らしぶりを伝えるようにしている。金銭管理は、出納帳に記入し、家族にサインをいただいている。</p>	<p>○ さらに、綿密に個々に対しての報告を行っていき、利用者・家族との信頼関係を築いていきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱を設置している。また面会時に意見や要望がないか尋ねている。</p>	<p>○ ご意見箱での直接の苦情や意見はいただけないが、信頼関係をさらに深めていき、何でも言ってもらえる雰囲気作りに努めていきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月一回以上、職員会議を行い、職員の意見を聴く機会を設けている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の体調の変化や特変などが起きた場合は、管理者、職員が近くに住んでいる為、すぐに対応できるようにしている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的に異動は行わないようにしている。自己退職での離職の際には利用者・家族に対してよく説明を行い、新しい職員の紹介もきちんと行っている。</p>	<p>○ 引き続き、基本的に異動は行わない姿勢を崩さず、やむを得ない場合は、利用者へのダメージが最小限になるよう努力していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に内外の研修を受けるよう働きかけ、なるべく多くの職員が受講できるようにしている。研修報告はレポートして回覧にて閲覧できるようにしている。	○	これからも勤務の調整を行いながら、パートも含む全職員が研修の機会をできるだけ多く持てるように努力していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の活動を通して、他のホームの職員の方との交流や勉強会の参加で知識の修得が出来る。	○	相互訪問を行う事で、積極的に良い物を取り入れていきサービスの質の向上につなげていこうにしたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会などを開き、職員同士のコミュニケーションが取れるようにしている。個々の抱えている悩みも出来るだけ聴くように心がけている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	得意な分野が発揮できるような環境作りを行っている。また、資格取得に向けた支援を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で生活状態や生活歴を把握するよう努め、本人の心身状態や思いに向き合い、安心して利用を始めていただけるように心がけている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学訪問時などにできるだけ多くの会話をもち、要望など気軽に言っただけのような雰囲気作りを心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス 利用も含めた対応に努めている	満床で受け入れできない場合は支援センターや他の事業所のサービ スにつなげるなどの対応を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	家族だけではなく必ず本人も一緒に見学に来ていただき、お茶を出し たり他の利用者との会話の輪の中に入れていただいたりしながら安心 感を持っていただくようにしている。	○	本人の安心と納得を大切にしたい利用の支援を一番 に考え、ご家族とも十分な話し合いを持ち、個別の 利用開始の調整を行っていききたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	季節に合わせた料理作りや漬物作り、干し柿作り等、昔とったきねづか を發揮できられるような場を作り、そこから学ばせてもらい、支えあう関 係を築いている。	○	本人の得意とされていた分野を把握し、それが発 揮され自信へとつながっていき、生きがいが生ま れ、心身の活性化につながって行かれるように支援 していききたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	入居当初はよく面会に来られても徐々に遠のく傾向にあるので、利用 者の様子を伝える際に、来居を促していくようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	外泊が無理な方は短時間でも外出の機会を持っていただくよう働きか けたり、行事への参加を誘いかけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	親戚が経営している美容室へ行かれたり、毎月の命日に仏様参りに外 泊されている利用者がおられる。電話なども希望されるたびに対応する ようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合え るよう努めている	職員が仲立ちとなり食事やお茶の時間等を利用し、利用者同士の関 わりが持てるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所へ移られた方にも、お花を持って面会に行くなどつながりを断ち切らないようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月一回のケア会議を開いて本人主体に出来るようにしている。希望、意向がある場合、申し送りノート等に記入し、全職員が情報を共有できるようにしている。	○	利用者の言葉や日々の行動や表情から思いや意向を組み取る事ができるような力をつけていくように努力したい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の調査で個人情報が把握できるようにファイルしており、全職員が情報を共有できるようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日、適切な記録を行い職員間の申し送り、情報伝達を確実にし、把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを含め、ケア会議で意見交換を行い、モニタリング、カンファレンスを行っている。介護計画には本人、家族の意見をよく聴き本人主体のプランになるよう心がけている。	○	利用者が自分らしく生活できるよう、本人や家族の要望を聴きながら、無理のない介護計画を作成していくようにしたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間が終了する前に会議を開き、見直しを行い、次の介護計画につなげている。必要に応じて期間中に変化が生じた場合は話し合いを行い新たな計画を作成している。	○	介護計画の期間中であっても、変化を見逃さず見直しを行い、現状に即した計画を作成し実践する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を毎日記入し、口頭での申し送りだけではなく申し送りノートを作り、勤務開始前には必ず目を通しサインをするようにして情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在は多機能性を活かした支援はあまり行っていないが、状況に応じて通院、美容室への送迎、母体老健への送迎などの支援を行っている。	○	グループホームの多機能性を活かして地域の高齢者が状況に応じて利用できるようにしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	絵本の読み聞かせや、絵画教室のボランティアの方を受け入れている。近くの小学校の体験学習の場として提供したり、消防、警察からの協力も得られている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要な利用者に対して、母体老健のリハビリを受けられるよう支援している。母体訪問美容室への送迎も行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要な利用者には他の事業所への移行など、支援センターのケアマネジャーと相談し支援している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医と連携し、適切な医療を受けられるよう支援している。必要であれば、専門医やかかりつけ医の受診を家族と協力しながら支援している。	○	本人や家族の希望を大切にしながら受診支援を行っていきたい。



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて専門医の受診を行って、相談し支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	母体の老健の看護師や協力医の看護師と気軽に相談できる関係ができています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院される時には「早く帰って来て下さいね」と声かけをし、入院中は頻りに職員が見舞い励ましの言葉をかけるようにしている。担当医からの情報も積極的にもらうようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化のおそれがある場合は家族と主治医がよく話し合ってもらい、終末期に向かっての方向性を決定していただき、その方針を共有し支援している。	○	早期からの話し合いや関係者全体の方針の統一が図れるよう努力していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医や母体老健との連携がとれていて、急変時には24時間対応できるようにしている。日頃から密に連絡を取り合い意志の確認を取るようにしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	十分な話し合いや情報交換を行い、スムーズに移れるように支援している。移り住まれた居所にもできるだけ訪問し、直にこれまでの暮らしぶりや個人情報の伝達を行うようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねる事がないよう折に触れ、全職員に周知するようにしているが、たまに声が高くなったり、利用者と同等の言動をする事がある。	○ 親しくなりすぎて利用者の尊厳を傷つけるような言動にならないよう配慮していき、個人情報は決して外部に漏れないようにする。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の能力に応じた言葉かけを行い、希望や願いを引き出すように努力している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて無理強いせずレクリエーションや手工芸などを行っている。希望にそって外出、散歩、買い物などの支援をしている。	○ あくまでも利用者主体の生活になるよう一人ひとりのその日の望みを知ることが心がけ柔軟に支援するように努力する。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	母体施設に訪問美容室があるのでそこを利用される方には送迎の支援を行い、他の美容室を希望される方には家族等と協力し支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下準備、配膳、盛り付けなどを職員と一緒にやり、穏やかな雰囲気の中で同じ物を一緒に食べ楽しみを共有している。	○ 能力や希望に応じて食事の準備に参加していただき、張り合いや自信、喜びや楽しみを持つ事で心身の維持や向上につなげていくようにする。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日頃の会話の中から好みの物を把握し、おやつに取り入れるようにしている。牛乳が飲めない方には、クールソフトを出すなど本人に合わせた支援をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	さりげなく声かけを行い、トイレ誘導を行っている。失敗してしまった場合でも他の利用者に気づかれないように配慮し対応している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日入浴できる体制を取っているが実際は週3回の入浴になっている。入浴しない日は本人の希望で足浴等ができるよう支援している。	○	本人の希望に合わせて入浴の順番や、体調に合わせてシャワー浴や足浴で対応し楽しんでいただけるよう支援している。これからも本人の希望に合った入浴支援をしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中はできるだけ活動していただき夜間の睡眠が十分に取れるような働きかけを行っている。室温や寝具の調節にも気をくばっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの得意分野を発揮してもらえるよう生活歴を知り、食事作り、掃除、草花のお世話等に関わっていただき必ず感謝の言葉を伝えるようにしている。	○	本人の気持ちや力を活かした生活ができられるよう、得意分野を知りそれを発揮してもらおう事によって楽しみや張り合いを持ってもらえるよう支援する。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が小額を手持ちされていて、毎日のように数えて安心されている人もいる。日頃手持ちしていない方も外出時には自分で払えるよう預かり金の中から手渡している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節を肌で感じてもらえるよう散歩やドライブ、外食などを行っている。また日光浴、外気浴をしながら、ホーム近くの広場でおやつをいただく機会を作っている。	○	一日一回は外の空気が吸えるように個々に合わせた支援を行っていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に合わせて花見へ行ったり、温泉へ行ったりと外出する機会を作り支援している。墓参りの希望があれば同行支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけられる時は子機を利用し居室で使えるように支援している。年賀状を出したい方には購入等の支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時時間等は定めておらず、いつでも気軽に来ていただけるように配慮している。お茶やお茶菓子を出し、居室にてゆっくり過ごしていただけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会などに参加し、報告資料にて全職員が共有している。身体拘束は絶対に行わないという姿勢で支援に取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階玄関が日中人がいない為、不審者進入防止の為施錠を行っている。ホーム内は自由に行き来ができるようにしている。外出の申し出があればその都度同行している。	○	鍵をかけない工夫を全職員で協議し実践へ向けて努力していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に利用者と同じ空間にいるようにしている。夜間は各居室の見守りをよく行い、利用者の様子を察知できるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自分で管理できる人には、ハサミ、針など管理していただいている。薬品、包丁などは適切な場所に保管するようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを作成し、母体の看護師から研修を行ってもらい、知識の修得をするようにしている。事故が起きた場合は事故報告書を作成し再発防止について検討を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し、研修会等にも参加し対応できるようにしている。緊急時の連絡網を作成し活用している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回、母体老健や消防署の協力を得て避難訓練を行っている。地域の人々にも運営推進会議などを通して協力を働きかけている。	○	いろいろな場合を想定しての避難の方法等を日頃から全職員で共有し、非常時に対応できるようにしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時などに現状をよく説明し、転倒などのリスクがある事を知ってもらうようにしている。万が一起きてしまった時の事を共通意識を持って対応できるよう話し合っている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	介護記録や申し送りノート等で情報を共有し体調の変化や異常の発見に努め、主治医や管理者に報告し指示をもらうようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬ノートがあり、いつでも見られる所に置いてある。常時薬以外に処方されたり、薬が変わった場合は申し送りノート等で全職員に周知するようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食生活にも気を配り、水分なども十分に取って頂いたり、出来る範囲で身体を動かして頂き様子観察を行い状態を見て対応している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は声かけ、見守りを行いはみがきや義歯の手入れを支援している。口腔ケア用品は定期的に消毒を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事を把握し、献立作成の際は栄養のバランスを考えて作成している。定期的に母体の管理栄養士に助言、指導をいただいている。	○	夜間帯、各居室に水筒を準備し麦茶で水分補給できる様にしている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、手洗い、うがいなどを行い予防に努めている。インフルエンザの予防接種を利用者、職員共々行うようにしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきんは毎日漂白し、清潔に心かけている。食材はなるべく買いためをせず、新鮮な物を購入するようにしている。冷蔵庫の点検、掃除もまめに行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには季節の花を植えており、行事の案内等のポスターや壁新聞を貼っていつでも気軽に入って来ていただけるように配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々を飾ったり、ネームプレートには季節感が感じられるような飾りつけをしている。レースのカーテンを使用し、光に対しての対応をしている。	○	飾り付けなどが過度にならないように注意し、居心地よい共用の空間作りに努力していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	二人がけのソファがあったり、和室がありそれぞれ好きな場所で過ごせるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や家族の写真などを飾る等、安心して過ごせるようにしている。植物が好きな利用者は部屋に沢山の植物を持ち込まれている。	○	個々が落ち着いてこれまでの暮らしの延長を感じる事ができるように、できるだけ使い慣れた物を持ち込んでいただくようにする。(鏡、時計、カレンダーなど)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気により窓を開けたり、換気扇を使い新鮮な空気を取り入れたり、冷暖房器具を使用し温度調節をしている。冬場は加湿器を使用し湿度調節も行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、一人ひとりが無理なく安全で快適な生活を送られている。移動時も手すりを使い安全な歩行ができるようになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	部屋がわからない人には、大きく名前を書いて居室入り口に示してあげ、混乱をさけるように工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホーム近くにいい広場を作りテーブルや椅子を設置して、日光浴や外気浴を楽しんだり、季節の花々を楽しむ事ができている。		

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・食事に关しては特に力を入れバランスの取れた献立作り、季節感が味わえる食材の使用等を心がけている。また昔から伝わる日本の行事（正月、盆、彼岸、節句等）は大事にし、その時々合った食事を提供し楽しんでいただいている。
- ・個々の身体・精神能力を低下させない為、レクリエーション、手工芸、学習療法、音楽療法などを取り入れ楽しみながらレベル低下を防ぐ支援を行っている。
- ・花見（桜、バラ、コスモス等）、温泉、外食、ドライブなど外出の機会を多く持つようにしている。